



酸ヶ湯温泉

- 「滞在する価値」づくりの取り組みについて -

令和8年3月19日
酸ヶ湯温泉株式会社
営業企画室 係長 高田新太郎

プロフィール

高田新太郎（酸ヶ湯温泉株式会社）



1989年 青森出身
2015年 弘前大学理工学部物理科学科 卒業
酸ヶ湯温泉株式会社 入社
2021年 弘前大学大学院修士課程 入学
2025年 弘前大学大学院修士課程 修了
2026年現在 酸ヶ湯温泉営業企画室係長
弘前八幡宮 権禰宜（神職）
弘前大学大学院博士課程 在学

酸ヶ湯温泉入社後、温泉だけではなく雪を利用した“ここならではの”企画立案しを実施している。コロナ禍には、視覚中心の観光に疑問を感じ、大学院修士課程に通い“サウンドスケープ（音風景）”を基盤とした経験について研究し、現在博士課程にて研究中。また、神職として弘前八幡宮（青森県）で奉仕をしている。大学時代に習得した中国語と韓国語を活かし、インバウンド対応も行い、様々な角度から日本・温泉文化を伝えている。

酸ヶ湯温泉について



大浴場「ヒバ千人風呂」

10年後の混浴プロジェクト（環境省主催）



男女ともに湯あみ着を着用するキャンペーンの実施



無病息災を願う「丑湯祭り」(午前2時頃)
今年は7月25日(土)、26日(日)実施

さまざまな温泉に対する価値観に疑問を感じはじめた...

酸ヶ湯の豪雪を活かした企画(イグルー)



マイスター養成講座



雪の茶室『樹氷庵』



イグルーカフェ&バー



雪風呂(お蔵入り)

雪があれば、アイデア次第でなんでもできると思い始める…

酸ヶ湯の豪雪を活かした企画(極寒座禅会)



視覚的観光から“聴覚的観光”の実践をはじめる

部屋からテレビとテーブルを外した『の〜ぷらん』部屋作成 (意味を崩壊させて再構築する試み)



説明を省略し、
体験した人が自ら気づく仕組み



寄港地ツアーで世界一に選ばれる



ヒバ千人風呂の話しながら、
日本の混浴文化についてを説明



湯治棟を紹介しながら、
日本の湯治文化について説明

日本のラグジュアリーとは、無駄を削ぎ落した先にあるのではないかと…

2024年冬 営業企画室結成で仲間が増えた



ブレーキがなかった私に、さらにエンジンが加わった(笑)

新たな湯治を継承していくための取り組み①

・酸ヶ湯新名物「健康鍋」の開発（青森中央短期大学との共同企画）



2025年10月
酸ヶ湯見学



2026年1月
試作



2026年3月
提供開始

栄養学的観点から考案した健康鍋（15日サイクルでの提供が可能に）

新たな湯治を継承していくための取り組み②

・八甲田自然インフォメーションセンター



人と情報が集まる拠点



スノーハイク体験
(初心者向け)



周辺散策



長期滞在しても楽しめるような場所づくり

ご清聴ありがとうございます。